

令和4年度盛岡市都市景観賞の決定について

1 目的と趣旨

都市景観形成の推進と市民意識の高揚を目的として、自然及び歴史的環境に調和した、潤いのある都市景観の形成に寄与する建築物等の施主等を表彰する盛岡市都市景観賞を昭和59年度から毎年度実施しており、今回で39回目となる。

2 決定までの経緯

- (1) 募集期間 令和3年8月1日～令和4年7月31日
- (2) 応募総数 17件
- (3) 選考について
盛岡市景観形成推進委員会において現地調査等を行い、決定。

3 令和4年度盛岡市都市景観賞の名称及び所在地

- (1) 駒木葬祭社屋（南大通二丁目）
- (2) 紺屋町番屋（紺屋町）

4 表彰式について

表彰は、11月18日（金）に盛岡劇場で開催する第45回盛岡市都市景観シンポジウムにおいて行うこととしている。

◆◆◆第45回盛岡市都市景観シンポジウムにおける講演等について◆◆◆

- 1 名称 第45回盛岡市都市景観シンポジウム
- 2 日時 令和4年11月18日（金）13時30分～16時30分
- 3 場所 盛岡劇場 メインホール（松尾町3-1）
- 4 テーマ 「街の魅力の情報発信！～盛岡の景観と人の暮らしから～」
- 5 内容
13:40 ①令和4年度盛岡市都市景観賞表彰式
14:00 ②基調講演（60分）
演題「盛岡にいい景観あると思います！
～岩手移住で知った、盛岡の魅力～」
講師 天津 木村 様
15:10 ③パネルディスカッション（約80分）
テーマ 街の魅力の情報発信！～盛岡の景観と人の暮らしから～
出演者 ・コーディネーター
齋藤 光子（フリーアナウンサー）
・パネリスト4名
澤口 花咲 様（岩手大学人文社会科3年生）
米内 真利佳 様（㈱盛岡地域交流センター
(Canaan Diary制作委員会事務局)）
櫻 聖四郎 様（生出まちづくりの会）
天津 木村 様

【問合せ先】

都市整備部 景観政策課
担当 遠藤 優、廣瀬 拓磨
TEL 019-601-5541

(資料) 令和4年度盛岡市都市景観賞

名称	駒木葬祭社屋
所在地	南大通二丁目
完成年	令和4年
建築主	株式会社駒木葬祭 代表取締役 駒木 進
設計者	一級建築士事務所 空間工房
施工者	ウチノ建設 株式会社
評価等	<p>今も城下町の歴史を感じる南大通の寺院群と鉾屋町・大慈寺町界限。株式会社駒木葬祭が、社屋を板張りに新しく建て直しました。</p> <p>瓦屋根に外壁は木板のよろい張り。一部をしっくい風に仕上げ、格子の窓、木製引戸によるシャッターや控えめな植栽、正面の下屋の柱脚には自然石を配するほか、夜間のライトアップなど、まち歩きで訪れた方々が写真に収めるようなやさしい雰囲気を与えています。</p> <p>正面の看板にあるように、同社は明治10年創業で今年創業145年になります。かつて盛岡市出身の「平民宰相」である原敬の葬儀を仕切ったことでも有名で、国内でも早くから葬儀に取り組んだ歴史を持っています。</p> <p>「ささやかでもご家族がここにつどい、故人を偲びながら打ち合わせ等をするためにふさわしい建物を」と願った施主と、それに応えた設計者、施工者のそれぞれの想い、そして周囲へと輪が広がることを期待しての受賞となりました。</p>



名称	紺屋町番屋
所在地	紺屋町
完成年	令和3年
建築主	盛岡市
設計者	有限会社 角館稲葉設計事務所
施工者	中亀建設 株式会社
評価等	<p>盛岡市民に親しまれた紺屋町の番屋は、とんがり屋根の火の見櫓（やぐら）から車庫まで、よろい張りの木板はかつての色合いを参考に生まれ変わりました。</p> <p>旧奥州街道沿いの紺屋町・中ノ橋通界隈にあり、大正2年（1913年）、外国から輸入された消防車に合わせ洋風な建物として生まれました。番屋として役目を終えた後平成27年に市へ寄附され、同30年景観法に基づく景観重要建造物に。令和3年からの改修復元工事では、盛岡市景観形成推進委員会が外装色について市民からの意見を元に決定。歩行者に配慮し、中津川に向け約1m後退。当時の石畳を用いた舗石や設備の遮蔽なども施しました。</p> <p>現在はカフェや物品販売、体験施設に利用され、歴史文化的価値の高い建物のリノベーションの好例となりました。長く保存に尽力した方々の紡いだストーリーに敬意を表し、盛岡のシンボルとして期待する思いを込めました。</p>

